

韓国日本語学会 ニュースレター

[2021-01]



発行人: 黄永熙 / 編集人: 國生和美 / 発行所: 韓国日本語学会 / 発行日: 2021.02.10.

ご挨拶	2
コロナとオンライン教育	3
役員名簿	5
常任理事会	10
会員情報	11
その他の学会ニュース	12
連携協力研究会活動報告	13
編集委員会	16
『日本語学研究』論文投稿案内	17
学会ホームページ案内	23

〒04763 Seoul 特別市 城東區 往十里路 220 漢陽サイバー大学校 日本語学科 黄永熙教授研究室

 <http://www.jlak.or.kr>

(研究編集事務局長: 朴慧眞) ☎ 010-7450-4055

(学術事業企画事務局長: 張允娥) ☎ 010-2893-2042

(教育広報事務局長: 中村有里) ☎ 010-7457-7001

ご挨拶

会員の皆さま、こんにちは。

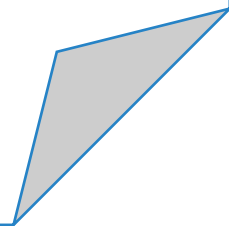
研究副会長を務めております、徳成女子大学の盧姪鉉と申します。

旧正月を迎えるにあたりまして、会員の皆さまへ新年のご挨拶を申し上げます。2021年には、どうか日常を取り戻し、楽しめる1年、健康で幸せな1年になるよう祈っております。

2020年の初旬から現在に至るまで、私たちは誰にも予測しようのない、誰もが通ったことのない道をただひたすらに歩いてきました。学生たちの活気と情熱がみなぎっていた大学のキャンパスが一年中、静寂に包まれている様子を見ると残念でなりません。また、年に二回、会員の皆さまにお目にかかれた学術大会もオンラインでの開催となり、一杯のコーヒーで花を咲かせた学問的な討論の場が恋しくなりません。

にもかかわらず、いつの間にかオンライン会議、オンラインでの学術大会、オンライン交流会などに慣れてしまった私たちの姿を見ていると、新型コロナウイルスによって開かれたアンタクト時代に少しずつではあるものの適応しているようです。その過程は決して容易ではありませんでしたが、これらも過去のものとなり、ネクストノーマル時代が到来することに疑いの余地はありません。2021年には来るネクストノーマル時代に合った教育及び、研究パラダイムの変化を共に創造する韓国日本語学会となるよう努力してまいります。

2021年3月20日第43回春季国際学術大会もオンライン学術大会という形で準備しております。新学期を迎えご多忙のこととは存じますが、新たな学問の流れを共に分かち合える貴重な場に、多くの会員の皆さまのご関心とご参加を賜りますようお願い申し上げます。



コロナとオンライン教育

編集副会長 高麗大学 蔡盛植

新型コロナウイルスの世界的大流行により、国内外の教育環境は急激に変化している。わずか1年前には想像もできなかった様々な状況が「ニューノーマル(new normal)」という名のもとに迅速に受容され、日常化している。「既存のシステムと異なる、やや新しい標準」ではなく、「抵抗できない新たな標準」に私たちの教育環境も順応するしかない局面となった。

これまで(少なくともポストコロナ時代以前)教育機関において行われてきた教育のほとんどは、相互作用(interaction)を基盤とした対面教育(オフライン教育)であった。もちろん、空間・時間的な制約の克服、教育の機会均等の提供などの面で、非対面教育(オンライン教育)がそれなりの役割を果たしてきたことも事実ではあるものの、あくまでも前者の補完的位置にとどまっていた点は否めない。しかし、形勢の逆転は一瞬の出来事であった。昨年3月、ほとんどの教育機関は、新学期と同時にオンライン専門教育機関への変貌を余儀なくされた。あまりにも急な転換であったことから、効率的で持続可能なオンライン教育のプラットフォームを構築するなどの深刻な悩みは度外視されたまま、どうにか授業を成立させなければならないという正当性のみが蔓延していた。

去る1年間、教育現場で個人的に経験した過程のすべては「試行錯誤」というやや旧態依然な四字熟語で要約できる。これまでの対面授業で経験することもなかった様々な状況に少なからず当惑し、解決のために数知れず頭を抱えてきた。しかし、重要な気づきもあった。それは私が担当してきた授業が、教室という一つの物理的な空間に学生たちとともに存在していたからこそ成立していたということである。不安定なインターネット環境により、オンラインミーティングが固まった瞬間、それは不可抗力な自然災害に他ならなかった。どれだけ授業がしたくてもできず、どんなに授業が聞きたくても聞けない、現代版ホン・ギルドンの「呼父呼兄」(出生の秘密を隠すべく父を父と呼べず兄を兄と呼べないこと)とでも言うべきだろうか。授業のあり方について悩むどころか、毎回祈る気持ちでコンピュータの画面と向き合うという経験はしばらく続きそうだ。

非対面教育も最新の IT 機材を適材適所に活用することで、対面教育に次ぐ良質な学習効果を担えることは周知の事実である。私の担当科目でも、板書なしでは通常の授業が行えない授業もあるため、毎時間タブレット PC を活用し、学生たちも好反応を示してくれた。また、近頃のオンラインミーティングプログラムは、良質なインターネット接続環境とハイスペックなコンピュータさえ確保できれば、リアルタイムの授業とフィードバックに無理のない強大な性能を誇っている。しかし、ハイスペックな IT 機材を活用したとしても、日本語をはじめとする外国語教育の現場においていくつもの限界にぶつかることとなる。これは、外国語教育の範囲が単に言語の四機能に限定されず、身体言語をはじめ、多様な非言語コミュニケーション(non-verbal communication)の領域にまで至るからである。対面教育の最大の利点である「臨場感」を介してのみ、円滑な教育と学習が期待される上記の領域を、アンタクト(untact)と言われる非対面時代でいかに対処するかが今後、私たち学界がともに考え、解決すべき課題である。

最後に、「評価」に関する話で筆を置きたい。一般的に評価に関しては「監督官の監視下で定められた時間に一つの空間に集まって受ける試験」という認識がなされてきた。このような認識だけを見ても、集まりや接触がタブー視されている現状で最も問題になるのは、ほかの教育領域よりも「評価」なのではないだろうか。評価本来の目的が、学習者の教育達成度に対する判断にあるということに異論はないが、それに劣らず重視されることは、公正性と弁別力の確保であろう。大学のような高等教育機関であれば、教科書持ち込み可を前提とした解答作成を認めたり、課題やレポートなどに置き換えて評価をすることもできるだろう。しかし、昨年の大学修学能力試験および、任用試験は言うまでもなく、日本語能力試験(JLPT)をそれぞれの自宅から非対面で行う光景が想像できるだろうか。私自身、非対面で実施した期末評価において同じ問題点に直面した者として、藁をも掴む思いで、日本語評価の専門家たちに卓見を伺いたい。

役員名簿

■ 常任理事

役職		氏名	所属	E-mail
会長		黄永熙	漢陽サイバー大学	tohyh@hanmail.net
副会長	研究	盧娃鉉	徳成女子大学	chel99@hanmail.net
	編集	蔡盛植	高麗大学	csshs@korea.ac.kr
	学術	郭銀心	京畿大学	kwak5017@naver.com
	事業企画	李竣瑞	聖潔大学	korjs2@gmail.com
	教育弘報	角ゆりか	明知大学	whitelily1227@hotmail.co.jp
総務理事	研究編集	朴孝庚	漢陽サイバー大学	phk0502@hanmail.net
	学術事業企画	孫栄爽	済州大学	freewill1472@naver.com
	教育弘報	魚住泰子	仁川大学	tacchu.j@gmail.com
財務理事		殷守希	淑明女子大学	esh0407@naver.com
評価理事		梁乃允	中央大学	ynaeyun@hanmail.net
学術理事		金義泳	ハンパツ大学	cara202@gmail.com
		金惠娟	聖潔大学	mahou@hanmail.net
		朴江訓	全州大学	hun0531@naver.com
		白以然	高麗大学	thyako@hanmail.net
編集理事		朴善玉	大眞大学	psoibm@hanmail.net
		兪樹延	全南大学	tokyoforeign@hanmail.net
		尹榮珉	延世大学	marchen52@naver.com
		李粹局	嘉泉大学	suhyang1022@naver.com
出版理事		崔裕京	漢陽女子大学	ykchoi@hanmail.com
情報理事		李相怡	明知専門大学	zzivi@hanmail.net
弘報理事		國生和美	東國大学	kazumi0121@naver.com
国際交流 理事	日本	金廷珉	亜細亜大学	kjm0630@gmail.com
		朴秀娟	神戸大学	parksooyun@gmail.com
		尹智鉉	早稲田大学	yoonyh.2030@gmail.com
		鄭惠先	北海道大学	jung@oia.hokudai.ac.jp
	中国	母育新	西安外国語大学	wuyuxin@xisu.edu.cn
		朱鵬霄	天津外国語大学	syuzpx@qq.com
		全紫蓮	慶尙大学	shizen9021@daum.net
	台湾	羅曉勤	台湾銘傳大学	hclo@mail.mcu.edu.tw
		河在必	釜山大学	hajp75@pusan.ac.kr
	オーストラリア	Lee, Duck-Yong	The Australian National Univ.	duck.lee@anu.edu.au
対外協力 理事	ソウル	迫田亜希子	明知大学	as982095@gmail.com
	京畿	鄭榮美	韓国観光大学	youngmi0425@hotmail.com
	江原	高慧禎	カトリック関東大学	nunbusida@hanmail.net
	忠北	李忠奎	西原大学	ch4229@hanmail.net

	忠南	金玄珠	ハンバツ大学	khj15@hanbat.ac.kr
	慶北	李慈鎬	慶北大学	ljh2008@knu.ac.kr
	慶南	趙恩英	釜山外国語大学	choeun215@gmail.com
	全北	安志英	群山大学	ajy@kunsan.ac.kr
	全南	林禔映	全南大学	jy-lim@chonnam.ac.kr
	済州	高暎喜	済州大学	kyh080jp@gmail.com
	日本	金照雄	時事日本語社	marketing1@korea.com
事業企画理事		李舜炯	慶北大学	soonhl@knu.ac.kr
		趙宣映	仁川大学	huyuski@daum.net
事務局長	研究編集	朴慧眞	ソウル女子大学	maipark@naver.com
	学術事業企画	張允娥	延世大学	willyoubehere@gmail.com
	教育弘報	中村有里	仁川大学	yoolee@inu.ac.kr
監事		文彰鶴	韓国外国語大学	kudosmoon@hanmail.net
		李承英	光云大学	sylee27@kw.ac.kr

■一般理事(国内:가나다順, 海外:五十音順)

〈国内〉		
檢校裕朗(極東大)	姜炅完(大邱カトリック大)	高恩淑(韓國科學技術大學)
琴鍾愛(忠南大)	金東奎(韓国外大)	金平江(祥明大)
朴才煥(京畿大)	方允炯(水原大)	白同善(江原大)
酒井真弓(徳成女大)	朴良順(蔚山科學大)	朴英淑(水原科學大)
成玗珂(祥明大)	孫在賢(徳成女大)	宋殷美(白石大)
宋正植(仁荷工專)	辛銀真(明知大)	梁敏鎬(釜慶大)
吳玆定(建國大)	元智恩(崇實大)	李東哲(新羅大)
張根壽(祥明大)	張元哉(啓明大)	鄭起永(釜山外大)
鄭相美(新羅大)	鄭夏俊(湖南大)	蔡京希(培花女大)
黃圭三(瑞逸大)		

〈海外〉		
阿部貴人(専修大学)	嵐洋子(杏林大学)	磯野英治(名古屋商科大学)
李在鎬(早稲田大学)	植松容子(昭和女子大学)	宇都木昭(名古屋大学)
大塚 薫(高知大学)	沖 裕子(信州大学)	荻野綱男(日本大学)
奥野由紀子(首都大学東京)	生越直樹(東京大学)	落合由治(台湾淡江大学)
金庭久美子(立教大学)	金 愛蘭(日本大学)	金智賢(宮崎大学)
金 蘭美(横浜国立大学)	倉持香(Volkshochschule Augsburg)	河野俊之(横浜国立大学)
白岩広行(立正大学)	全永男(中国延辺大学)	高木千恵(大阪大学)
Daniel Long(首都大学東京)	Tiziana CARPI(ミラノ大学)	CHUSRI,Asadayuth (チューローンコーン大学)
中山亜紀子(広島大学)	名嶋義直(琉球大学)	西川朋美(お茶の水女子大学)
野田尚史(国立国語研究所)	橋本直幸(福岡女子大学)	藤岡典子(シンシナティ大学)
松丸真大(滋賀大学)	村上敬一(徳島大学)	山内博之(実践女子大学)

■編集委員会(2020.1.1-2021.12.31)

委員長：曹英南(高麗大学)

監事：尹榮珉(延世大学)

音声学 音韻論	閔光準(建国大) 鄭炫赫(サイバー韓国外大) 戸田貴子(早稲田大学/日本) *高慧禎(カトリック関東大)	語用論 社会言語学	洪珉杓(啓明大) 荻野綱男(日本大学/日本) 生越直樹(東京大学/日本) 盧姪鉉(徳成女大) *鄭賢児(西京大)
通時論 形態論	張根壽(祥明大) 裴銀貞(釜山外大) 金廷珉(亜細亜大学/日本) Lee,Duck-Yong (The Australian National Univ./豪州) *朴江訓(全州大)	日本語教育	落合由治(淡江大学/台湾) 李美淑(明知大) 李恩美(明知大) 鄭相美(新羅大) *金義泳(ハンバツ大) 倉持香(Volkshochschule Augsburg/ドイツ)
意味論 語彙論	*李慈鎬(慶北大) 張元哉(啓明大) 李羽濟(白石藝大)	日本語史	羅工洙(嶺南大) 林禔映(全南大) * 朴孝庚(漢陽サイバー大)
その他 日本語学	李朱利愛(梨花女大) 盛文忠(上海外国語大学/中国) 鄭惠先(北海道大学/日本) *辛銀眞(明知大)	◆「*」は、実務担当編集委員(実務委員) そのほかは審査担当編集委員(査読委員)である。	

■研究倫理委員会

委員長	盧姓鉉 (徳成女子大学)
委員	姜旻完 (大邱カトリック大学), 朴江訓 (全州大学), 酒井真弓 (徳成女子大学), 梁敏鎬 (釜慶大学), 張良光 (カトリック大学)

■学術研究発展委員会

委員長	高慧禎 (カトリック関東大学)
委員	朴海煥 (淑明女子大学), Lee, Duck-Yong (The Australian National Univ.), 李承英 (光云大学), 全紫蓮 (慶尙大学), 洪珉杓 (啓明大学)

■学術誌発展委員会

委員長	李恩美 (明知大学)
委員	朴江訓 (全州大学), 朴孝庚 (漢陽サイバー大学), 曹英南 (高麗大学), 蔡盛植 (高麗大学), 洪珉杓 (啓明大学)

■日本語教育発展委員会

委員長	角ゆりか (明知大学)
委員	金志宣 (梨花女子大学), 中村有里 (仁川大学), 持田祐美子 (平澤大学), 迫田亜希子 (明知大学), 川口慶子 (崇實大学), 小島堅嗣 (培材大学)

■学術賞選定委員会

委員長	洪珉杓 (啓明大学)
委員	姜錫祐 (カトリック大学), 朴海煥 (淑明女子大学), 李暲洙 (韓國放送通信大学), 李恩美 (明知大学), 曹英南 (高麗大学)

■学会発展基金委員会

委員長	李竣瑞 (聖潔大学)
委員	高慧禎 (カトリック関東大学), 金惠娟 (聖潔大学), 南得鉉 (明知専門大), 崔正勲 (CS インターナショナル)

■諮問委員会

監事	姜錫祐 (カトリック大学)
委員	康仁善 (聖公會大学), 金玉任 (誠信女子大学), 盧明姫 (東國大学), 閔光準 (建國大学), 朴海煥 (淑明女子大学), 李暲洙 (韓國放送通信大学), 李範錫 (カトリック大学), 李漢燮 (高麗大学), 尹幸舜 (ハンパツ大学), 鄭相哲 (韓国外国語大学), 洪珉杓 (啓明大学)

常任理事会

* 第五次 常任理事会

(2020 年 12 月 11 日(金) 16:00 ZOOM オンライン会議)

1. 研究・編集 関連報告

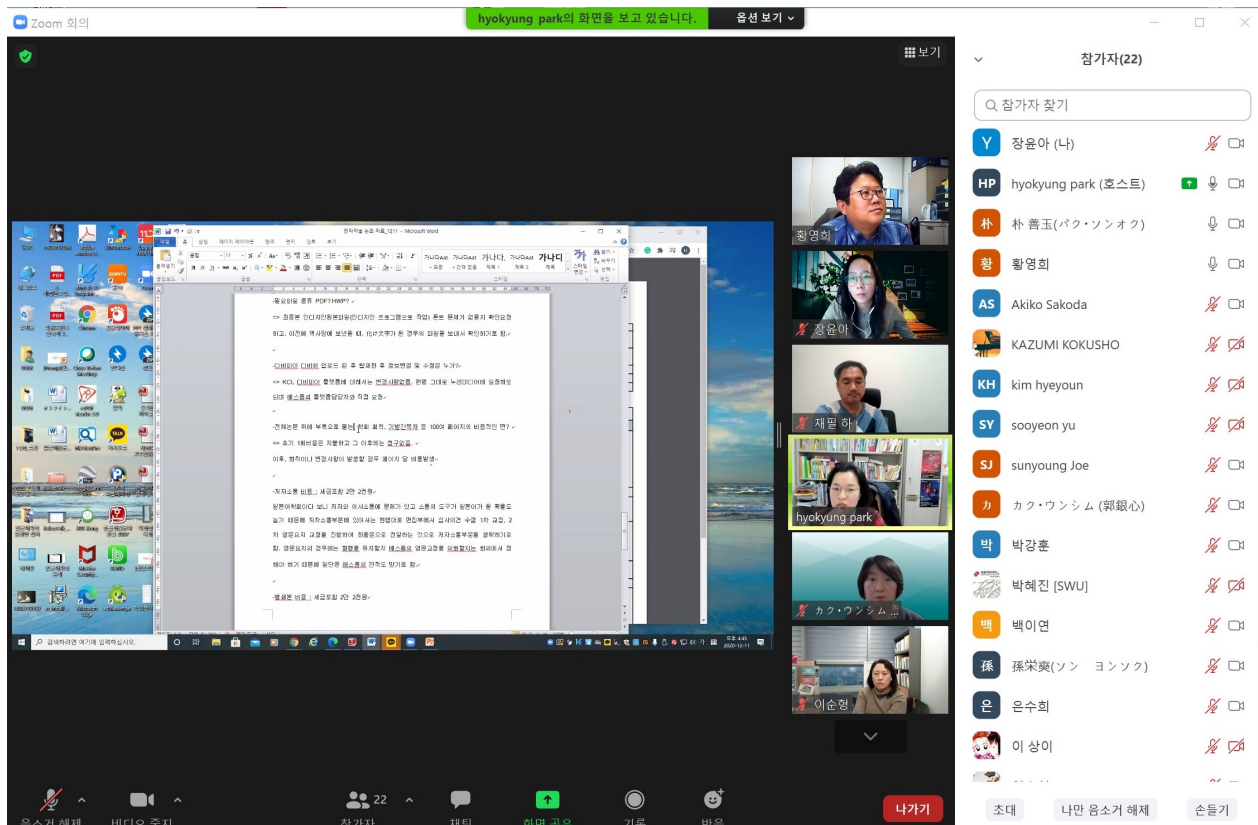
- 第 66 輯『日本語学研究』発行報告
- 第 67 輯『日本語学研究』展望号 進行状況の報告
- 学術誌デジタル化について

2. 学術・事業企画 関連報告

- 2021 年度(3 月)国際学術大会開催について

3. その他

- 互助会について
- 2021 年度ニューズレター発行について(新年の挨拶・学術大会の結果報告)



会員情報

○ 任用及び、転任

尹 智鉉 会員

早稲田大学日本語教育研究センター、准教授(～2020.)

中央大学文学部・文学研究科、准教授 (2021.04～)

辛 銀眞 会員

明知大学校日語日文学科、講師(～2021.02.28.)

仁川大学校日語日文学科、専任教員に任用(2021.03.01～)

○ 事務局

〒04763 Seoul 特別市 城東區 往十里路 220 漢陽サイバー大学校 日本語学科 黄永熙教授研究室

 <http://www.jlak.or.kr>

(研究編集事務局長: 朴慧眞) ☎ 010-7450-4055

(学術事業企画事務局長: 張允娥) ☎ 010-2893-2042

(教育広報事務局長: 中村有里) ☎ 010-7457-7001

 jlak123@hanmail.net

● 審査料及び掲載料の納付先

국민은행(kookmin Bank) 014301-00-002268

은수회(한국일본어학회) 殷守希(韓国日本語学会)

- ・ 個人会員の場合は学会運営の関係上、郵送料をいただいております。学会誌の発送をご希望の方は事務局までご連絡くださいますようお願いいたします。学会誌に記載された論文は創刊号から最新号まで学会ホームページの学会誌 ([학술지](#))よりダウンロードできますのでご利用ください。

その他の学会ニュース

1. 2021年3月 春季国際学術大会開催

2021年3月20日(土) オンライン(ZOOM)にて、第43回春季国際学術大会を開催する予定です。

ご発表を希望される方は、jlak_study@naver.com (学術理事) まで、お申し込みくださいますよう、お願いいたします。発表申し込みの締め切りは、2月15日(月)、発表要旨の締め切りは、2月27日(土)となっております。

2. KJC (Korea Journal Central) 登録

韓国日本語学会は、JAMSをいち早く導入した後、韓国研究財団のKJC事業に申請し、承認を得て、学術誌専用ホームページを開設しました。日本語学研究へのアクセスがより一層容易になり、電子ジャーナルのサービスが可能になりました。多くの会員の皆様のご利用をお待ちしております。 <http://journal.kci.go.kr/jlak>

KJC Korea Journal Central

Korean | English

ISSN : 1229-7275
2019 KCI Impact Factor : 0.84

Home About Author Article Search for Article Advanced Search

Aims & Scope more ▶
no data found.

Editor-in-Chief more ▶
no data found.

Citation Index more ▶
· KCI IF(2yr) : 0.84
· KCI IF(5yr) : 0.52
· Centrality Index(3yr) : 0.712
· Immediacy Index : 0.35

E-Submission
Editorial Board
Review Process
Editorial Policy

Current Issue : 2020, Vol., No.66 more ▶
Current trends and prospects of studies on Japanese OPI in Korea
Kawaguchi Keiko | Sakoda Akiko | Kojima Kenji and 10 other persons | 2020, (66) | pp.5~26 | Number Of Cites : 0
Abstract

Most Cited / Most Read more ▶
日本漢字の字音形に 나타나는 拍의 關與에 대해서 -1拍과 2拍의 混在를 중심으로-
이경철 | 2009, (25) | pp.129~141 | Number Of Cites : 25
Abstract

連携協力研究

□ 韓国継承日本語教育研究会 □

2020 年度は継承日本語教育の飛躍の一年となりました。2020 年度後期の主な活動についてご報告いたします。

◆第 1 回 継承日本語スピーチ大会 in 韓国 を開催

2020 年 11 月 7 日(土)に『第 1 回 継承日本語スピーチ大会 in 韓国』を国際交流基金ソウル日本文化センターの後援を受け、Zoom にて開催しました。当日は、韓国日本語学会の黄永熙会長にも審査員としてご参加いただきました。当初は 5 月にオフラインにて開催予定でしたが、オンラインで開催することになり非常に多くの苦労をとまいました。しかし、子供たち、保護者、参加者の皆様からの反響は多大なもので、多くの学びとつながりを得て無事成功裏に終えることができました。



◆「日本語教育推進法」に関する国際フォーラムに参加

2020 年 10 月から 6 か月にわたって、継承語教育推進のためのオンライン国際フォーラムが開催(BMCN 主催)され、日本を含む海外 6 地域の継承語教育の現状と課題についての講演とディスカッションが行われました。当研究会も韓国代表として参加しました。この国際フォーラムは、世界各地の継承語教育の現状と課題を共有する貴重な機会になっただけでなく、当研究会が今後アジア地域との連携を深めていく大きな機会になりました。

*このフォーラムの録画は登録者を対象に 2021 年 3 月末まで公開されています。

どうぞ、こちら <<https://www.bmcn-net.com/forum>>からご登録ください。

★韓国継承日本語教育研究会の活動にご興味を持たれた方、是非ともご連絡下さいませ。

ホームページ <http://krkeishougo.net>

Facebook グループ「韓国継承日本語教育研究会」

□ 韓国 OPI 研究会 □

韓国OPI研究会からは、2020年度の研究会の活動および来年度の活動計画についてご報告させていただきます。

◆定例会について

今年度は、オンライン会議システム”Zoom”を利用し4月25日(土)、6月20日(土)、10月31日(土)、12月12日(土)の4回の定例会を開催しました。先日行われた、2020年度 第4回の定例会では、実際に被験者を招いてZoomによるOPIインタビューを試み、初めてZoom上でデモンストレーションを行いました。直接ではなかったものの「対面」という形で臨場感のあるインタビューを見聞きし、普段よりも更に活発に議論することができました。

◆OPIスタディーについて

2020年5月より、毎週金曜日の午前中に牧野他(2020)『OPIによる会話能力の評価ーテストング、教育、研究に生かすー』を用いた勉強会を行ってきました。主に、専門書について OPIの構成や判定の仕方、インタビューの留意点、ACTFLプロフィシエンシー・ガイドラインなどについて学び、日本語教育や研究へのOPIの生かし方について勉強しています。Zoomで行っているため、韓国国内の地方にお住まいの方、また日本やその他の国にお住まいの方もご参加くださっています。どなたでもご参加いただけますので、ご興味がおありの方は、本研究会のメールアドレスにご連絡お願いいたします。(韓国OPI研究会メールアドレス kankokuopi@gmail.com)

◆論文執筆について

この度韓国OPI研究会スタッフ4名で、これまでに韓国で行われてきた日本語OPIに関する研究を調査すべく、韓国国内で発行された日本語OPIに関する論文をもとに共同研究を行い、川口慶子・迫田亜希子・小島堅嗣・後藤歩(2020)「韓国における日本語OPIに関する研究の動向と展望」を執筆しました。韓国の日本語教育の歴史、そして韓国OPI研究会の歴史をふまえ、これまで韓国で行われてきた日本語OPIの研究分野や傾向を概観し、今後求められる研究分野の展望について論じました。

◆2021年度の活動計画について

今年度はコロナ禍の影響で、初めてのZoomでのオンライン定例会を開催し、更にはオンライン上でのOPIインタビューのデモンストレーションを行いました。2021年度の定例会も、当分はZoomで開催する予定ですが、被験者を招いて直接インタビューを行うデモンストレーションを取り入れたり、共同研究を行ったりしながら活動していく予定です。また、OPIスタディーでの疑問点や質問について、OPIトレーナーの先生をお招きし、お話を伺う機会を作る方向で調整しております。今後の予定につきましては、詳細が決まり次第、研究会のホームページにてご案内して参りますので、どうぞご参照ください。(韓国OPI研究会ホームページ <http://opik.da-te.jp/>)

📖 日韓コミュニケーション研究会 📖

私ども日韓コミュニケーション研究会は、2021年1月現在、活動中の会員は6名であり、そのうち韓国在住会員5名、日本在住会員1名となっています。学会発表、論文投稿、教材出版等の成果発表を目標にして共同研究を行うと共に、より多様な研究がしやすいように、個人での研究活動も盛んに行っています。また定期的に全体会を実施し、研究の前段階の構想を相談や意見交換、共同研究や個人研究の進捗状況の報告や情報交換、また会員による学術発表などを行い、お互いに切磋琢磨しながら研究を進めています。

こうした活動によって、韓国内外の学会において会員による口頭発表や学術誌への論文掲載のほか、書籍の出版等様々な形で成果をあげています。2020年も韓国日本語学会の第41・42回国際学術発表大会において、渋谷雅円氏が「大学の日本語教育におけるラーニングブリッジの必要性－韓国人留学生を対象に－」、藤田智彦氏が「韓国入中等日本語教師と日本語ネイティブとのエクスチェンジスタディーの試み」を発表するなど、日本語関連の学会で積極的に研究成果を発信しております。

今後も韓国日本語学会主催の学術行事に積極的に参加し、韓国における日本語関連の研究および教育の発展に力を尽くしていきたいと思っております。ご興味をお持ちの方は、ぜひ当研究会へご参加ください。

編集委員会

【66 輯編集委員会】

・第 1 次 編集委員会 (2020. 10. 14. オンライン)

- 1) 第 66 輯 投稿論文確認及び報告 (15 編)
- 2) 第 66 輯 投稿論文審査委員選定
- 3) 第 66 輯 審査日程論議
- 4) 第 66 輯 投稿論文審査依頼

・第 2 次 編集委員会 (2020. 11. 3. オンライン)

- 1) 第 66 輯 審査進行確認

・第 3 次 編集委員会 (2020. 11. 9. オンライン)

- 1) 第 66 輯 投稿論文審査結果報告及び確認
- 2) 第 66 輯 投稿論文審査の結果、10 編の掲載を決定
- 3) 第 66 輯 審査結果通知及び投稿者修正依頼

・第 4 次 編集委員会 (2020. 12. 2. オンライン)

- 1) 第 66 輯 投稿者修正内容確認
- 2) 英文要旨監修依頼、チェックサラン編集依頼

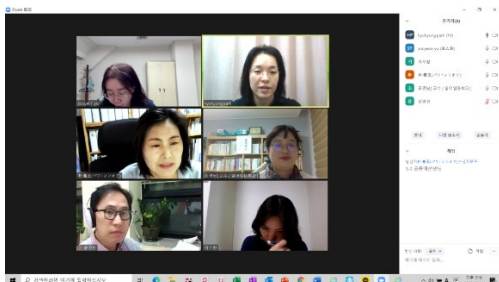
・第 5 次 編集委員会 (2020. 12. 7. 図書出版チェックサラン)

- 1) 第 66 輯 1 次刊行作業経過確認
- 2) 第 66 輯 1 次刊行作業及び校正作業

・第 6 次 編集委員会 (2020. 12. 11. オンライン)

- 1) 第 66 輯 最終校正作業
- 2) 第 66 輯 印刷依頼
- 3) 編集委員会今後の日程確認

・『日本語学研究』第 66 輯 発行 (2020. 12. 20.)



『日本語學研究』論文投稿案内

『日本語學研究』投稿規定

■ 投稿規定

第1条(学会誌発刊日程)

	論文投稿締切日	学会誌発刊日
第1回発刊	前年度12月31日	3月20日
第2回発刊	3月31日	6月20日
第3回発刊	6月30日	9月20日
第4回発刊	9月30日	12月20日

①学会誌は上記の日程で年4回発刊する。

②投稿論文は随時受け付け、締め切りは上記のようにする。

第2条(投稿資格)

①原則的に本学会の会員に限る。

②招請講演者、姉妹学会の会員、編集委員会の推薦による海外からの投稿者は例外とする。

③連携協力研究会において発表した論文は、本学会での発表と同一の資格を付与する。

第3条(投稿対象)

一般会員は本学会の学術発表会での口頭発表の有無と関係なく投稿することができる。

第4条(論文内容)

日本語学関連の論文として、既存の国内外の学術誌に発表していない独創的な研究論文でなければならない。また、本学会の研究倫理規定に従わなければならない。

第5条(掲載限度)

一つの学会誌に掲載することができる論文は一人一編に限る。また、同一人物の単独論文は2回以上連続して掲載しないことを原則とする。ただし、招請論文等の場合は例外とする。

第6条(分量)

学会で規定した論文作成要領に従い、図及び表を含めて16ページ程度とする。12ページ未満及び20ページ以上の超過は受け付けないことを原則とする。

第7条(投稿論文受付)

- ①投稿者は本学会の論文作成要領に従って論文を作成し、学会のオンライン投稿システム(<http://jak.jams.or.kr>)から提出する。
- ②投稿者は学会のオンライン投稿システムに会員登録する際、必ず本人の身分事項を記載しなければならない。
- ③審査用の論文本文には投稿者と関連する事項を一切記載しない。また、編集委員会の幹事が記入の有無を確認する。

第8条(審査)

招請論文を含む全ての投稿論文は審査規定に則り、編集委員会の主管で3人以上の審査委員の審査を経て、掲載の可否を決定する。審査委員の選定は投稿論文の専攻研究分野を考慮し、編集委員会で決定する。但し、3人の審査委員には本学会の編集委員1人又は当分野の専門家が含まれることを原則とする。

第9条(審査料及び掲載料)

- ①審査料は1編あたり6万ウォン、掲載料は一般論文の場合は10万ウォン、研究費受託論文の場合は20万ウォンとする。ただし、無発表論文の掲載料は一般論文20万ウォン、研究費受託論文30万ウォンとする。ただし、招請論文は審査料および掲載料を免除する。
- ②学会発表論文として認められる期間は発表日から2年以内とする。
- ③最終的な掲載論文の分量が20ページを超過する場合、1ページごとに1万ウォンを追加で負担する。
- ④審査料は論文投稿締切日までに、掲載料は掲載用原稿の提出締切日までに英語要旨文校正費2万ウォンとともに入金しなければならない。

第10条(校正)

原稿の校正は投稿者が責任を持ち、論文の編集は編集委員会の方針に従う。

第11条(別刷本)

原稿料を別途で支払うことなく、学会誌に論文が掲載された投稿者には学会誌2部と別刷本20部を贈呈する。但し、海外発送の場合には別途30,000ウォンの配送料が発生する。

第12条(著作権)

受け付けた原稿は返還しない。また、投稿論文が学会誌に掲載された場合、該当する論文の著作権は、オンライン・オフラインともに本学会に帰属する。

第13条(その他)

本規定に明示されていないその他の事項は編集委員会の決定に従う。

〈付則〉

- ・この投稿規定は、2015年10月30日から改訂・施行される。
- ・この投稿規定は、2015年12月21日から改訂・施行される。
- ・この投稿規定は、2017年09月01日から改訂・施行される。
- ・この投稿規定は、2018年03月21日から改訂・施行される。
- ・この投稿規定は、2019年01月11日から改訂・施行される。
- ・この投稿規定は、2019年12月06日から改訂・施行される。
- ・この投稿規定は、2020年02月21日から改訂・施行される。

『日本語學研究』投稿要領

■ 投稿要領

1. 使用言語

論文は韓国語、日本語または英語で作成する。

2. 使用環境

原稿はアレアハングルを使用して作成することを原則とし、アレアハングルで入力できない漢字及び記号、図表などは他の紙面で提出する。但し、外国在住などの理由で、アレアハングルを使用できない場合はMSワードを使用して作成する。

3. フォント

韓国語は「新明朝」、日本語は「新明朝略字」を原則とする。但し、MSワードの場合、韓国語は「明朝」、日本語は「MS明朝」で作成する。

4. 原稿分量

学会で規定した論文作成要領に従って、図及び表を含めて16ページ程度とするが、12ページ未満及び20ページを超過した場合は受け付けないことを原則とする。最終的な掲載論文の分量が20ページを超過する場合、追加掲載料を負担する。

5. 論文内容

次の順序に従い、フォント及び体裁は論文作成要領を参考にする。

① 論文題目

② 著者名:著者名には脚注に所属、職位、細部専攻を記入する。(論文作成例 参照) 2人以上の共同論文の場合、第1著者を先頭に書き、必要な場合、脚注で著者の所属及び細部専攻の後に“(第1著者、交信著者)”と明示する。

③要旨:要旨(題目含む)は最初のページと最後のページにそれぞれ作成する。論文の最初のページの要旨は300語程度の英語(必須)で作成し、論文の最後のページの要旨は600字程度の分量で英語を除いた論文の本文と異なる言語で作成する。(例:論文の言語が日本語の場合は韓国語、論文の言語が韓国語の場合は日本語にする)

④ 研究分野:二つの要旨に投稿論文の研究分野を例に示した分野の中から選択し、明示する。(例:音声学(Phonetics)、音韻論(Phonology)、統辞論(Syntax)、形態論(Morphology)、意味論(Semantics)、語彙論(Lexicology)、語用論(Pragmatics)、社会言語学(Sociolinguistics)、日本語教育(Japanese Education)、日本語史(Japanese History)、その他の日本語学(Other Japanese Studies))

⑤キーワード:二つの要旨に論文の内容を含みうる5つ以内の主題語を要旨と同一の言語で提示する。

⑥ 本文

⑦ 注:本文の内容を補充する必要がある場合、脚注を作成する。

⑧ 用例出典:原則的に用例の出典を明らかにする。

⑨参考文献:著者名を基準にして韓国語、日本語、英語の順で作成し、書誌情報は著者名、年度、論文または著書名、論文の場合は掲載誌の巻号、発行機関、ページ数の順で漏れなく記載する。同一著者の文献が二つ以上ある場合、年次順に作成し、二つ目の文献からは著者名の代わりに下線を用いる。

例: 김정수(2003)「한일어 조사대조」『일본어학연구』6 한국일본어학회 pp.1-5

_____(2004)「일본어 대우표현의 특징」『일본어학연구』10 한국일본어학회 pp.1-5

高橋太郎(1969)「すがたともくろみ」『日本語動詞のアスペクト』麦書房 pp.1-5

Rakoff, L. (1973) Language and Women's Place. Language in Society, NY: Harper Colophone Books, pp.1-5

6. 図及び表

すべての図は下段中央に、表は上段中央に〈図1〉、〈表1〉のように表示し、必ず題目を記入する。

7. インターネット資料

インターネット資料を用例出典及び参考文献として利用した場合、URLの後ろに検索年月日を明示する。

(例: <http://www.jak.or.kr/> (検索日: 2014.3.20))

8. 外来語表記

ハングル正書法の外来語表記法に従う。

▣ 審査料及び、掲載料入金要領

[要旨発刊費]

■入金期限: 学術発表の発表要旨の投稿締切日(または発表当日)

■金額: 10,000ウォン

[審査料]

■入金期限: 論文投稿締切日

■金額: 60,000ウォン

[掲載料]

■入金期限: 掲載用原稿の提出締切日

■英語要旨文校正費: 2万ウォン(投稿者負担)

■金額:

学会発表論文: 一般論文(10万ウォン), 研究費受託論文(20万ウォン)

無発表論文: 一般論文(20万ウォン), 研究費受託論文(30万ウォン)

※但し、最終的な掲載論文の分量が20ページを超過する場合は1ページあたり1万ウォンを追加で負担する。

[入金口座]

■口座番号: 国民銀行 014301-00-002268 (殷守希<韓国日本語学会>)

※入金時に送金者の氏名及び送金内容を必ず記載すること(例: 山田太郎 審査料)

[審査及び掲載用論文提出先]

本学会オンライン投稿システム(<http://jak.jams.or.kr/>)から提出する。

□ 論文作成要領

論文例示ファイル(ronbunrei.hwp)をダウンロードし、これに作成することを推奨する。

1. 編集用紙の形式は以下の通りである。

■種類: 使用者定義, 幅170, 縦240

■余白: 上 20, ヘッダー10, 下 10, フッター0, 左 15, 右 15

2. 論文のフォントは韓国語は「新明朝」、日本語は「新明朝略字」を原則とする。但し、MSワードの場合、韓国語は「明朝」、日本語は「MS明朝」で作成する。各部分別のフォントと体裁は次のとおりである。

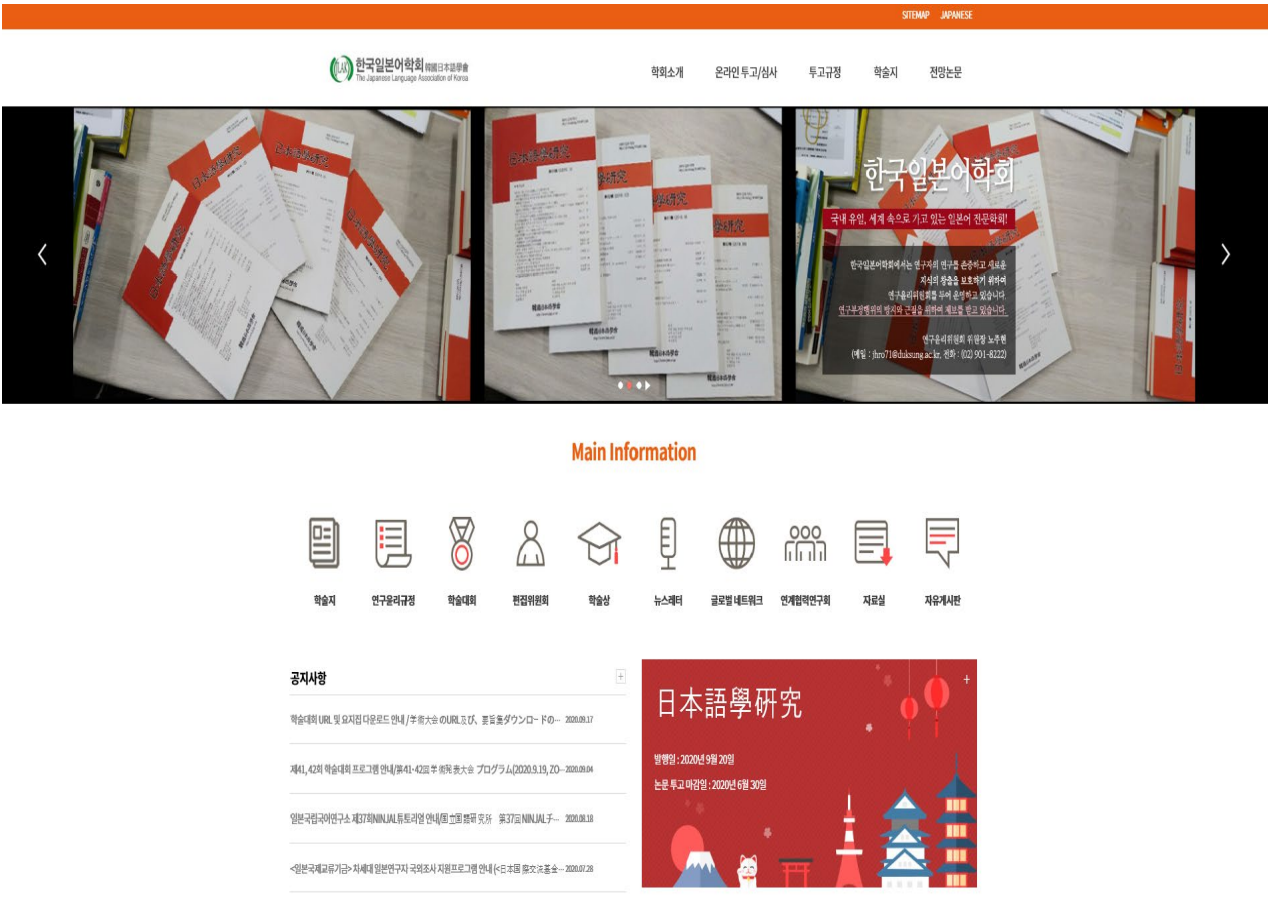
■論文題目	ポイント 16, 太字, 中央寄せ, 行間隔 160
■副題目	ポイント 12, 中央寄せ, 行間隔 160
■著者名	ポイント 13, 右寄せ, 行間隔 160
■要旨	ポイント 9, 両端揃え, 行間隔 160
■論文分野	ポイント 9, 左寄せ, 行間隔 160
■キーワード	ポイント 9, 左寄せ, 行間隔 160
■大見出し	ポイント 13, 太字, 左寄せ, 行間隔 160
■中見出し	ポイント 11, 左寄せ, 行間隔 160
■小見出し	ポイント 10, 左寄せ, 行間隔 160
■本文	ポイント 9.5, 両端揃え, 行間隔 160, 段落 インデント 10pt
■引用文	ポイント 9, 両端揃え, 行間隔 160, 段落 左余白 30pt (例文など番号がある場合、段落 アウトデント 12pt追加)
■脚注	ポイント 9, 両端揃え, 行間隔 130, 段落 アウトデント 12pt
■参考文献	ポイント 9, 両端揃え, 行間隔 160, 段落 アウトデント 55pt

* 論文作成例示を参考にすること。

学会ホームページのご案内

韓国日本語学会ホームページでは、以下のような多様なサービスをご提供しています。

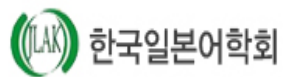
1. 論文投稿
2. 論文審査
3. 『日本語学研究』論文検索およびダウンロード
4. 学術大会関連情報および要旨集ダウンロード
5. その他本学会関連情報



学会ホームページ URL

<http://www.jlak.or.kr/>

The Japanese Language Association of Korea



ニュースレターでは、会員の皆様の近況及び、お知らせを掲載しています。
記事の掲載をご希望の方は、メール (jlak123@hanmail.net) までご連絡ください。

■ 학회사무국	■ 学会事務局
〒04763 서울특별시 성동구 왕십리로 220 한양사이버대학교 일본어학과 황영희 교수 연구실	〒04763 Seoul 特別市 城東區 往十里路 220 漢陽サイバー大学校 日本語学科 黄永熙教授研究室
010-7450-4055 (研究編集事務局長:박혜진)	010-7450-405 (研究編集事務局長: 朴慧眞)
010-2893-2042(学術事業企画事務局長:장윤아)	010-2893-2042(学術事業企画事務局長:張允娥)
010-7457-7001(教育広報事務局長:나카무라유리)	010-7457-7001 (教育広報事務局長:中村有里)
E-mail : jlak123@hanmail.net	Homepage : http://www.jlak.or.kr